

英語プレゼン大会の開催

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: YAMAOKA, Kenzo メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4318

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



英語プレゼン大会の開催

樟蔭学園英語教育センター
センター長 山岡 賢三

1. はじめに

2009年度の英語教育センター設立当初から、「樟蔭学園英語教育センター（以後、ELTC）の認知度・社会貢献度を上げる」という目的を達成するため、樟蔭学園が新しい英語教育の発信基地となるべく、宣伝効果を期待して、毎年、時代のニーズに応じた英語教育のテーマを選び、著名な講師を招聘し、ワークショップを開催してきた。このワークショップは、大阪府・奈良県・大阪市・東大阪市の各教育委員会に後援申請及びホームページやポスター・チラシなどでの大々的な宣伝活動を実施し、大阪近郊の英語教育関係者や一般の英語教育に関心のある方を対象に実施されてきた。しかし、このワークショップも2016年度の第10回大会を終え、当初の目的がほぼ達成された。

一方で、ELTC設立当初から英語暗唱大会や英語スピーチコンテストのような大会を開催できないかという声があったが、なかなか実施できる環境を作ることができなかった。そんな折、国は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、「初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図る」⁽¹⁾ことを掲げた。グローバル化に対応するため、英語で発信する力、英語でプレゼンテーション（以後、プレゼン）する力が求められ、2020年度から小学校5・6年生で英語が教科になり、中学校・高等学校では英語のプレゼンが授業の中にも導入されるようになった。

そこで、2017年度樟蔭学園が百年を迎えるこの機に、「樟蔭学園英語教育センター主催ワークショップ」に代わり、「樟蔭百周年記念英語プレゼン大会（小学生は英語発表大会）」を開催することにした。ここでは、開催に至る経過とその結果を報告する。

2. 大会までの経過

2016年9月10日第10回目のワークショップを終え、その目標達成を実感した筆者は、同時に、ELTC設立当初からの念願であった英語による発表大会について考え始めた。折りしも、大阪市立中学校教育研究会英語部主催の全市一斉研究会公開授業で、中学生がI-padを使って英語のプレゼンをする姿を見学し、樟蔭学園ELTC主催の英語プレゼン大会の実現を確信した。但しこのときは、中学生の部、高校生の部の開催しか考えが及ばなかった。

同時に学園内で英語プレゼン大会実現のための組織づくりをする必要があった。それまでのワークショップはELTC主催だったため、ワークショップ当日受付・会場案内など、中高の英語科教員の協力はあったものの、自分たちのイベントという自覚はほとんどなく、ワークショップはELTCのイベントという意識でしかないように見えた。学園全体で掲げた「英語の中高大一貫教育を実施すること」というELTC設立の目標を実現するためには、英語科教員の積極的な参加が不可欠であった。そこで、中学生の部は樟蔭中学校・高等学校の英語科と高校生の部は大阪樟蔭女子大学国際英語学科と共催することを目指した。

2016年の9月～11月は組織づくりの根回しのため、理事長・事務局長、学長・国際英語学科長、高等学校長・副校長と直接交渉し、ある程度の了解を得た上で、12月8日のELTC運営委員会で正式に英語プレゼン大会の提案をした。運営委員会では、「小学生の部を開催してはどうか？」や「来年度樟蔭学園百周年なので、『樟蔭百周年』を冠につけてはどうか？」という積極的な意見も出た。

2017年の1月～3月に、中学校・高等学校の英語科教員代表と大学国際英語学科長と筆者で英語プレゼン大会実行委員会を数回実施し、小学生の部の開催、『樟蔭百周年』を冠につけるという意見を取り入れながら、具体的な実施案を作成した。2017年3月28日のELTC全体会で、ELTC構成員全体に審議事項として英語プレゼン大会（小学生の部：英語発表大会）の実施案を提案し、審議の結果、承認された。

2017年の4月に、大阪府、奈良県、大阪市、東大阪市、各教育委員会の後援申請を行った。当初、後援許可を受けるのは難しいだろうという予想もあったが、過去のワークショップ開催の実績とその延長上に今回の英語プレゼン大会を実施する旨、地域の子どものための英語教育に寄与する旨を記載す

ることで、大阪府、大阪市、東大阪市、各教育委員会の後援許可が下りた。残念ながら、奈良県教育委員会からは奈良県所在の学校ではないのでという理由で、丁寧な断りの電話を頂いた。

並行して、協賛してくれる業者を募り、国際ビジネスコミュニケーション協会（TOEIC® Program 運営）、ウェブリオ株式会社、The Japan Times の協賛を得ることができた。日本英語検定協会にも後援依頼を申請したが、許可が下りるのが遅かったため、今回は辞退した。

5 月末に小学生の部のチラシが完成し、6 月大阪市立小学校研究会国際理解部英語担当、東大阪市立小学校校長会などを通して、チラシが配布された。同時に、樟蔭中学校・高等学校入試広報部から近隣の塾にもチラシが撒かれた。6 月末には中学生・高校生の部のチラシが完成し、7 月大阪市立中学校教育研究会英語部、東大阪市立中学校校長会、大阪府中学校英語教育研究会、大阪市高等学校校長会、大阪府高等学校英語教育研究会を通して、チラシが配布された。同時に、大学入試広報課の参与から大阪府・奈良県下の高校にチラシが撒かれた。また、大会 1 ヶ月前（小学生の部は 7 月末、中高生の部は 10 月末）に大阪日日新聞社に取材を依頼した。

3. 実施要項

以下に英語プレゼン大会（英語発表会）の実施要項を明記する。

3-1 目的

- ① 樟蔭学園の認知度・社会貢献度を上げる。
- ② 樟蔭学園の英語教育の一層の充実と発展を図る。
- ③ 樟蔭中学高等学校及び大阪樟蔭女子大学国際英語学科の生徒・学生の確保に繋げる。

3-2 対象

- ① 小学校の部：外部（大阪府・奈良県近郊）女子小学生（5・6 年生）
- ② 中学生の部：内外部の女子中学生
 - ・ 内部は校内の英語プレゼン大会の優勝者及び準優勝者
 - ・ 外部は中学校（大阪府、奈良県）各校 2 名まで
- ③ 高校生の部：内外部の女子高校生（1・2 年生）

- ・ 内部は校内の英語プレゼン大会の優勝者，準優勝者，3位の者
- ・ 外部は高等学校（大阪府，奈良県）各校3名まで

3-3 日時

- ① 小校生の部：2017年8月27日（日）9:30～12:00
- ② 中学生の部：2017年11月26日（日）9:30～12:00
- ③ 高校生の部：2017年11月26日（日）14:00～17:00

3-4 内容

3-4-1 発表方法

- ・ 英語のプレゼンテーション（小学生は英語発表）
- ・ テーマ自由（自作で未発表のもの，但し小学生は自作を問わない）
- ・ 小学生の部一人2分以内，中学生の部一人3分以内，高校生の部一人5分以内
- ・ パワーポイント使用（小学生は自由）
- ・ スクリプト持込可

3-4-2 司会進行

- ・ 英語教育センター外国人スタッフ・高校教員
- ・ 国際英語学科学生及び樟蔭中高等学校生徒

3-4-3 賞及び副賞

<小学生の部>

- ・ 第1位（理事長賞）：カップ・1万円分図書券
- ・ 第2位（最優秀賞）：カップ・8千円分図書券
- ・ 第3位（優秀賞）：カップ・6千円分図書券
- ・ 第4位（奨励賞）：5千円分図書券
- ・ 第5位（ウェブリオ賞）：オンライン英会話10回無料使用券
- ・ 参加賞：蛍光ペン（本選出場全員）

<中学生の部>

- ・ 第1位（理事長賞）：カップ・1万円分図書券
- ・ 第2位（最優秀賞）：カップ・8千円分図書券

- ・ 第3位（優秀賞）：カップ・6千円分図書券
- ・ 第4位（The Japan Times 賞）：The Japan Times ST1 ヶ月無料購読券
- ・ 第5位（ウェブリオ賞）：オンライン英会話 10 回無料使用券
- ・ 学校賞：IC レコーダー
- ・ 参加賞：蛍光ペン（本選出場全員）

＜高校生の部＞

- ・ 第1位（理事長賞）：カップ・3万円分図書券
- ・ 第2位（最優秀賞）：カップ・2万円分図書券
- ・ 第3位（優秀賞）：カップ・1万円分図書券
- ・ 第4位（TOEIC® 賞）：TOEIC® テスト公式問題集 2 冊
- ・ 第5位（The Japan Times 賞）：The Japan Times ST1 ヶ月無料購読券
- ・ 第6位（ウェブリオ賞）：オンライン英会話 10 回無料使用券
- ・ 学校賞：IC レコーダー
- ・ 参加賞：蛍光ペン（本選出場全員）

3-4-4 審査員及び審査方法

- ・ 大学国際英語学科日本人教員，大学ネイティブ教員，中高校英語科教員，ELTC ネイティブスタッフ
- ・ 上記の4名による合議で決定
- ・ 別紙審査基準表でジャッジペーパー作成 出場者の各ジャッジ得点上位者より 10・9・8・7・・・3・2・1 点と換算し，それぞれ上位者を決定し，その結果を踏まえて，ジャッジ4名の合意で入賞者を決定する。なお，基準スピーチは行わないのでジャッジペーパーは前半終了までジャッジが保持し，相対的な観点での訂正を可能にする。
- ・ 学校賞は，中学生の部では2名，高校生の部では3名参加した学校の中で，参加者の合計が最上位の学校に学校賞が与えられる。

3-4-5 応募方法・発表者選抜方法

- ・ 発表内容の英文スクリプトと発表者のプレゼンテーションデモ（30秒以内）動画データを英語教育センターへ10月20日（小学生の部7月20日）までにメールで送付
- ・ 発表者は小学生の部約25名，中学生の部約20名，高校生の部約15

名を応募者の中から、英語教育センタースタッフが選抜、11月10日（小学生の部 8月10日）に応募者へ結果通知メール配信

3-4-6 大会周知の方法

- ・ 大阪府・大阪市・東大阪市各教育委員会の後援申請
- ・ 大阪市立小学校・中学校教育研究会，東大阪市立小学校・中学校校長会，大阪府中学校英語教育研究会，奈良県中学校には中高入試広報室から，大阪府下・奈良県下の高等学校には参与から案内チラシ配布
- ・ ホームページに掲載
- ・ オープンキャンパス・オープンスクールで宣伝
- ・ 広報部・中高入試広報室からの宣伝

3-4-7 事務・運営：

- ・ 事務・受付に関する業務は ELTC が行う。
- ・ 小学生の部の運営は中学高等学校英語科教員と ELTC スタッフが行う。
- ・ 中学生の部の運営は中学高等学校英語科教員と ELTC スタッフが行う。
- ・ 高校生の部の運営は大学国際英語学科科教員と ELTC スタッフが行う。

4. 大会当日

4-1 小学生の部

8月27日に開催された小学生の部では，大阪府や奈良県の小学校5・6年生が14名参加した。英語による発表で，テーマは自由，紙芝居や落語，パワーポイントを使つてのプレゼンテーションなど様々な発表があった。発表者は少し緊張した様子だったが，練習してきた成果を発揮した。

1位の理事長賞は，大阪市立新今宮小学校6年生 港 志帆さん，2位の最優秀賞は，大阪市立高倉小学校6年生 宮崎 李さん，3位の優秀賞は，東大阪市立太平寺小学校5年生 原口 結菜さん，4位の奨励賞は，東大阪市立楠根小学校5年生 井上 梨奈さん，5位のウェブリオ賞は，豊里小学校5年生 角谷 愛羅さんが受賞した。

4-2 中学生の部

11月26日の午前に開催された中学生の部では、公立や私立中学校の1～3年生の13名が応募しましたが、体調不良による辞退があり、11名の参加になった。テーマは自由で、パワーポイントを使つての英語のプレゼンテーションだった。発表者たちは、緊張した雰囲気の中でも滑らかな英語で上手に発表をしていました。内容は、「自分の夢」や「私の好きな場所」についてなど、様々だった。

審査の結果、1位の理事長賞は、大阪市立咲くやこの花中学校3年生 塩見 春菜さん、2位の最優秀賞は、東大阪市立布施中学校2年生 岡崎 来春さん、3位の優秀賞は、大阪市立鶴見橋中学校3年生 松岡 希乃さん、4位のThe Japan Times賞は、大阪市立東生野中学校3年生 佐野 彩花さん、5位のウェブリオ賞は、大阪市立本庄中学校3年生 戸田 優花さん、学校賞は、大阪市立本庄中学校が受賞した。

4-3 高校生の部

11月26日の午後に開催された高校生の部は、公立や私立高校の1・2年生18名が参加した。テーマは自由でパワーポイントを使つての英語のプレゼンテーションだった。内容は、「日本と外国の刑務所の違い」や「人間は忘れる生き物である」など興味深いテーマもあった。特に、都島工業高校の「自らが開発したバイオエネルギーによる自動車走行実験」についての発表は、実験を通した理系の発表らしく大変興味深いものであった。発表時間は5分と長かったにもかかわらず、発表者たちは自分の思いを一生懸命伝えていた。

1位の理事長賞は、大阪市立咲くやこの花高校2年生 茂岡 琴美さん、2位の最優秀賞は、大阪市立咲くやこの花高校2年生 石東 れいさん、3位の優秀賞は、プール学院高等学校2年生 徳川 真椰さん、4位のTOEIC®賞は、プール学院高等学校2年生 中西 里奈さん、5位のThe Japan Times賞は、大阪市立南高等学校1年生 中村 真悠子さん、6位のウェブリオ賞は、樟蔭高等学校2年生 三井 海琴さん、学校賞は、大阪市立南高等学校が受賞した。

5. まとめ

参加者数に関して、小学生の部は発表者14名、見学者46名の計60名、

中学生の部は発表者 11 名、見学者 39 名の計 50 名、高校生の部は発表者 18 名、見学者 26 名の計 44 名、参加者の総数は 154 名であった。対象を子どもにすることによって、保護者や学校関係者の参加もあり、昨年度の英語教員だけを対象にしたワークショップの参加人数 74 名に比べ、参加者が増えたので、「学園の英語教育を広報する」という ELTC の目的を達成したのではないかと考える。

参加者のアンケートでは、①樟蔭の雰囲気、②中学・高校・大学（国際英語学科）の説明、③英語教育センターの施設、④英語プレゼン（発表）大会の運営についての各項目で 90%以上の「大変良かった、良かった」の回答をいただいた。また、感想やコメントには、「皆さん英語が上手で本人もよい経験をすることができたと思います」（小学生の部）、「生徒がもっと英語が好きなる良い機会となりました」（中学生の部）、「来年もぜひやってください」（中学生の部）、「他校のプレゼンをみることができ、とても勉強になりました。帰ったら『こんなことをしてやろう！』という気になりました」（高校生の部）、「このまま何回も続けて欲しいと思いました」（高校生の部）などよい評価をいただいた。

しかしながら、同時に以下のことが課題として挙げられる。小学生の部では、「開催日が 8 月なのでもっと早くチラシを完成させ、早い時期に広報活動を開始すべきだった」「小学校の英語教育がまだまだ整備されていないのが現状で、小学校へ参加者募集を期待するのは時期早々だった」「子ども英会話塾など新たな広報先を開発すべきである」、中学生の部では、「研究会に頼りすぎ、思ったよりは応募者が少なかった」「学校からの応募でないと参加できないことになっていたが、学校の許可があれば個人でも参加できるようにすべきだった」「地元の東大阪市と大阪市に拘ったが、寝屋川市など英語プレゼンに積極的な地区もあることを知った」、高校生の部では、「地元の高校へもっと早い時期から広報すべきであった」などが挙げられる。全体的には、「学校名や名前など申込事項を先に受付、動画や英語原稿の締め切りを遅らせる方がよかった」や「動画の容量が大きすぎて送れなかったので、インターネットサイトを使ってアップロードすべき」「開催時期が期末テスト前だったため考慮すべきだった」などの反省があった。

最後に、英語によるプレゼン能力はこれからグローバル社会を生きる子どもたちにとって大切な能力である。自分の体験を、自分の考えを、自分の学

校を，自分の住んでいる町を，日本を，日本の文化を発信する力，また，自分たちが作ったプロジェクトや作品を英語で説明する力が求められている。今後この大会がこのような能力を身につけることを目指す地域の子どもたちの目標になり，樟蔭学園入学者の増加に繋がるようにしていきたい。

【注】

- (1) 「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」 文部科学省 2013 年

